



沼津の中学校で東部方面音楽隊が生演奏



中学生との合同リハーサル



全校生徒に合同演奏を披露

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・定免克己一等空佐）は、10月31日（火）、沼津市立第三中学校において実施された「陸上自衛隊東部方面音楽隊（朝霞駐屯地）演奏会」に協力した。

この演奏会は、同校の鈴木美校長から音楽隊によるブローの演奏技術と本物の楽器が奏でる音楽を生徒に体感させたいという強い要望と、音楽隊の演奏会を通じて自衛隊という職業を知ってもらい、自衛隊の活動への関心を高めてもらう目的で実施された。午前中は同校吹奏楽部との合同リハーサルと各楽器の演奏指導が行われ、高校受験を控え引退していた3年生の元部員たちも参加し、ブローの技術指導を受けた。生徒たちは「ブローの演奏を聞くことはあっても、直接指導を受けて同じ楽器で合同演奏をしたのは初めて。貴重な体験ができた」と感想を語っていた。

午後からは、全校生徒約600人が体育館に集まり演奏会が開かれた。まず音楽隊がシロフォンやトロンボーンなど各楽器の特徴を捉えたソロ演奏で観客を魅了し、吹奏楽未経験者や中学生でもわかりやすいように一つ一つの楽器の紹介を行った。後半は若者に人気の高いハロウィン・デイズニードレィ等で会場を盛り上げるとともに、最後に吹奏楽部との合同演奏を披露した。

学校の教諭からは「ぜひまたこのような機会をつくり、技術指導や演奏会を開いてもらいたい生徒の成長に結び付けたい」との声があり、演奏会の成果を実感した様子であった。

静岡地本は、今後も学校や専門学校などのイベントを支援し、連携を深めるとともに自衛隊への理解促進や志望者の増加を図っていく。

防災拠点のショッピングセンターに自衛隊車両登場



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・定免克己一等空佐）は、11月5日（日）、イオン袋井店（袋井市）で行われたイベントにおいて広報活動を実施した。

同店は、災害時に災害対処の拠点となることから周辺自治体等の協力のもと警察・消防車両展示などのイベントを定期的に開催して防災の啓蒙活動を実施しており、このほど袋井市自衛隊協会の協力により静岡地本に依頼があり、初めての自衛隊参加となった。

同店周辺地域は袋井市内の防災拠点の一つであり、一般災害派遣時に担任となる陸上自衛隊板妻駐屯地（御殿場市）所属の第34普通科連隊の支援を受けて参加した。

当日は、心地よい秋晴れの中駐車場内において第34普通科連隊の軽装甲機動車、オートバイ、高機動車、人命救助システムなど自衛隊が災害対処で使用する装備の展示を行うとともに、静岡地本は袋井市募集相談員・右島康弘氏の協力を得て、非常用糧食や災害派遣活動の写真パネル展示、自衛官募集の制度説明、パンフレット配布、カプセルトイによる自衛隊缶バッジ配布、子供用迷彩服の試着体験を行った。会場は子供連れの家族など約2000人の来場者で賑わい、それぞれが自衛隊の災害対処について理解を深めていた。

静岡地本は、今後も災害時に対応する部隊等と連携し担当地域の安全・安心を向上させる広報活動を積極的に行い、地域住民の自衛隊に対する理解促進に努め、ひいては防衛基盤の強化を図っていく。

「平成29年度静岡県指揮官会議」に参加



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・定免克己一等空佐）は、11月7日（火）、静岡県総合研修所もくせい会館（静岡市）で実施された「平成29年度静岡県指揮官会議」に定免本部長ほか国民保護・災害対策担当者2人が参加した。

この会議は、自衛隊、県、警察、消防等の関係機関が一堂に会し、地震や風水害等の災害対処に関して意見交換を行い、認識共有を図ることを目的として、平成14年度より毎年実施されているもの。今回自衛隊からは、静岡地本のほか航空自衛隊航空教育集団司令部（浜松市）、陸上自衛隊富士学校（駿東郡小山町）、海上自衛隊横須賀地方総監部（神奈川県横須賀市）等の指揮官が参加した。

会議は、主催者である静岡県知事の挨拶から始まり、南海トラフ地震に関する静岡県の計画の改定、平成29年度自衛隊統合防災演習の成果、5月1日に発生した浜松市山林火災における災害派遣状況など、各議題に関する発表とそれに伴う意見交換が活発に行われた。

会議に参加した国民保護・災害対策担当者は「このような形の会議は他の都道府県ではあまり見受けられないものであり、東海地震に対する備えを長年にかけて実施し、防災先進県と言われる静岡県ならではのものではないかと思う。今回の見聞を今後の業務の参考にして、静岡地本として何ができるかを考えていきたい」と述べていた。

静岡地本は、今後も本会議に参加し、災害対処に関する自衛隊と部外関係機関の連携強化に努めていく。